

学習の森 だより

No.186

12月号に続き、ふるさと学習館で開催中の企画展から彫刻家・半田富久について紹介します。

ゆるぎの美学

昭和60年(1985)半田は、茨城県のつくば研究学園都市で開催された「国際科学技術博覧会(通称・つくば科学万博)」のモニュメントとして「ゆるぎ石」を制作しました。約50トンの巨石が指一本で揺れ動く設計で、大きな話題になりました。

「ゆるぎ石」の原点は半田が小学生の時に目にした妙義山の大地岩にあります。半田は長年に渡って巨石が動く体験を作品に盛り込みたいと考えており、そ



ゆるぎ石
写真提供 公益財団法人
つくば科学万博記念財団

令和3年度 文化財愛護ポスター



優秀賞

磯部小学校(5年)
武井 楓人さん

の念願が万博の企画として実現しました。「ゆるぎ石」は切り出した100トンの岩石を一边約3メートルの立方体に加工したもので、内部に三角錐を彫り込んだ迫力ある作品です。立方体は「人々が違いを乗り越えて手をつなぎ合う」という万博の理念を、三角錐は筑波山を表し、5キロ程度の力をかけるとシーソーの原理でゆらゆらと揺れ動く作りになっています。半田はこの作品で「現代の人がなくしているおらかさ、素朴さ、優雅さを訴えていきたい」と語っています。

「ゆるぎ石」は恒久的な作品として万博終了後もその場に残され、現在もつくばエキスポセンターの屋外展示物として人々に親しまれています。

鎮魂と芸術

昭和60年8月12日、上野村の御巢鷹山に日本航空123便が墜落し、520人の尊い命が失われました。半田は当時の上野村村長から依頼を受け、鎮魂のための慰霊塔と納骨堂を制作しました。



日本航空機遭難事故のための
慰霊塔および広場(慰霊の園)

半田はこの制作に「モニュメントという概念につけ加え、数段大きなマウスリウム(優麗壮大な墓)という構想」を持って取り組み、高さ約11メートル、奥行き約6メートルの巨大な三角錐を合掌させた壮麗な慰霊塔を完成させました。塔は山の斜面を切り崩して造った納骨堂を背にしており、合掌のすき間から納骨堂と約10キロ先にある事故現場を直線上に拝することができるようになっています。総重量は400トン、約300年の風雪に耐える設計だといいます。

白御影石を使った清らかな慰霊塔には「清そ感、純粹さ、品格を出し、永遠なるものを表現しよう」とつとめた。(中略) 惨事で悲しい死をとげた人の最後の住まいを、せめて満足のいくものにしてやりたい」と語った半田の願いが込められています。

1月26日(水)、27日(木)は展示入れ替えのため、ふるさと学習館は臨時休館です。



安中市学習の森ふるさと学習館第22回企画展

ゆるぎの美学 巨石彫刻家 半田富久
安中市出身の彫刻家半田富久の作品と生涯を紹介する企画展示です。展示期間：1月24日(月)まで

問合せ▶安中市学習の森 ふるさと学習館 午前9時～午後5時(入館・ミュージアムショップは午後4時30分まで)
安中市上間仁田951 Tel. 027-382-7622 mail: furusato@city.annaka.lg.jp
【1月の休館日】1/1(土)～1/4(火)、1/11(火)、1/12(水)、1/18(火)、1/25(火)、1/26(水)、1/27(木)